

インターディシプリナリーアプローチにおける

矯正歯科治療の役割：ペリオケースを中心に

文野 弘信 DIO 文野矯正歯科 院長

出身大学院：ニューヨーク大学歯学部 歯科矯正学 歯科理工学

講演抄録

歯科における2大疾患は齲蝕と歯周病である。矯正治療を行う上でこれらの疾患は治療を妨げる面倒な存在である。矯正治療を行う際は、一般的に健康な歯と歯周組織を持つ事が条件となる。歯周病により咬合崩壊された症例に対する矯正治療には、問題のある歯周組織に負荷を与えなければならない点からも“矯正力”に対し十分な配慮が必要となる。咬合崩壊に加えて欠損部への補綴処置を必要とする歯周病患者の治療には、インターディシプリナリーアプローチとして各専門医の連携による診断および治療目標と計画が必要となる。咬合再編成としての治療全体のマネージメント的役割を担う矯正医は歯周治療により改善された歯周組織を悪化させることなく、天然歯と人工歯が共存できる歯列に整え直す必要が求められる。

今回は、歯周疾患を伴う咬合崩壊症例に対して、矯正治療を応用して咬合改善へと導いた治療例を紹介しながら、矯正治療による形態と機能の回復、そして審美性の獲得についてお話したい。